

談天

DANTEN



おおた たかこ
太田 貴子

一般社団法人東北経済連合会 監事

高齢化社会とリハビリテーション

高齢化社会が進んだ日本において、健康寿命の延命が課題となっている。健康寿命の延命について様々な取り組みがなされる中、疾病からリハビリテーションを経て生活を再建しようとする高齢者も増加している。

厚生労働省のデータによると、2017年時点での回復期リハビリテーション病棟への入院患者の約66%が75歳以上となっており、内閣府の試算では75歳以上人口は、2054年まで増加傾向が続くものと見込まれていることから、リハビリテーションが必要となる高齢者の増加傾向は暫く拡大すると考える。

一方、国家資格である理学療法士(PT)、作業療法士(OT)言語聴覚士(ST)の有資格者数は2010年時点で累計135,980人だったが、2020年時点で310,011人となっており、年1万人以上のペースで増加している。

2020年時点での医師数が339,623人であるから、療法士数の増加が顕著であることが理解できる。

また、回復期リハビリテーション病棟病床数は現在約8万床で、2006年から2016年の10年間で約2.2倍に増加している。(2022年10月時点での10万人あたりの地域別病床数の全国平均は79床であるのに対し、東北は最下位の59床となっている。)

弊社はトレッドミル(ランニングマシン)を製造しているメーカーであり、医療用トレッドミル、リハビリテーション用トレッドミルも製造している。

リハビリテーション用トレッドミルは主に、急性期の治療を経てリハビリテーションを集中的に提供する回復期に用いられることが多い。

トレッドミルの利点は、課題を設定しやすいこと、フィードバックが容易なこと、そして付属装置を容易に付加できることにある。

専門家によると、歩行訓練は歩行学習であり、フィードバックなしに行動変化は成立しない。

最近では、動作を解析し、適切な歩行訓練を提案できるリハビリロボットも登場している。

リハビリテーションを支える専門家の急激な増加もあり、リハビリ機器も黎明期を迎えつつあると感じている。

かつては若い労働者人口比率が大きかったことから、病気を治すことに重点が置かれてきたものが、人口ピラミッドの変容で高齢者人口比率が大きくなったことにより、支え、癒し、抱えて生きる、看取ることが必要な社会となって来ている。(厚生労働省資料)

このような環境において、我々の製品が生活を再建しようとする人達と、それを支える専門家にとっての良きパートナーとなり、リハビリテーションを支えるスタンダード機器の一つになりたいと願っている。

(参考：厚生労働省、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人日本言語聴覚士協会、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会)

(株式会社大武・ルート工業 常務取締役)